

たばたあずみ



Tell・Fax 550 6674

山根 とみえ



Tell・Fax 550 4224

戸沢 ひろゆき



Tell・Fax 558 9721

心配の声 つぎつぎに...

### 強まる放射能への不安 対策は

3月に発生した福島第1原発の事故による放射能汚染はとどまるところを知らず、東日本各地に広がっています。10月6日に文科省が発表した航空調査による放射線の測定結果では、奥多摩町などと並び、あきる野市の西半分も比較的測定値の高い(0.1~0.2μsv)地域であるとされました。

事故発生直後から市議団に寄せられている不安の声・対策を求める声は日ごとに増える一方です。その内容は、当初に比べ冷静に、子どもたちへの影響を思いやる面が強くなっています。

野菜はだいじょうぶ?

東京都が実施している農作物の放射能検査で、あきる野産の茶葉から暫定基準値(500ベクレル/kg)を超える、670ベクレル/kgの放射性セシウムが検出されました。千葉などの茶葉から放射能が検出されたために実施されましたが、そもそもあきる野産茶葉は市場には流通していません。

あきる野産の野菜では、これまでの検査でホウレンソウ・トウモロコシ・トマト・クリ・米からは放射性物質は検出されませんでした。10月19日採取のシイタケからは、73ベクレル/kgの放射性セ

シウムが検出されましたが、暫定基準値を下回るため、流通に問題はないとされています。

しかし、低レベルの放射能にさらされ続ける例は世界でもまだ研究されておらず、実際にどの程度の影響があるかはまだだれにもわかりません。内部被ばくは外部被ばくより影響が大きいとの専門家の指摘もあり、シイタケを作っている農家では「心配で出荷できない。全部捨てている」との声も。こうした自主規制は損害と認められず、賠償金などの対象にはならないのです。

市議団のたびたびの要請にもかかわらず、市は市内定点6カ所の測定しか行わない姿勢を変えません。市民の不安の声にこたえ、市議団ではそれぞれが市と同じ型の放射線測定器(Dose-RAE2)を購入、市内の各所で測定を行っています。

公園の砂場、植込みの周りなどを測定していると、子どもを連れた若いお父さん・お母さんが「数値はどうですか?」と尋ねてきます。駅周辺でも、「こどもへの影響がいちばん心配だよね」と語るタクシーの運転手さんなど、こどもたちへの影響に関心が高まっています。



「うちでも測って」「測定器を貸して」などの要望も寄せられています。



測定値の傾向では、やはり雨水のたまる場所の数値が高く、油平クラブハウス付近水たまり跡で0.15μsv、秋留野公園内木の枝の下で0.13μsvなど。草むら



市内の各地で測定を実施

きめこまかな対策を!

こうした市民の不安の声に反して、市はいまだ除染が必要と判断する基準値すら設けていません。学校給食についても、国の意見のとおり、暫定基準値を下回っているものは安全として、独自の基準や検査の必要はないとしています。

しかし、独自で国より厳しい除染の基準を設けた自治体や、給食を休み、お弁当持参を公式に認めた自治体、独自の安全基準(国基準の半以下!)を作った生協など、未知の放射能汚染から人々、とりわけ子どもたちをまもろうという取り組みが各地で起こっています。

当市においても、ホットスポットの対策になるような測定箇所を増やすなど、きめこまかな対応が求められています。

日本共産党あきる野市議団としても、市民の不安を取り除くための対策をとるよう、今後も市に求めています。

#### 法律相談

11月24日(木) 13時30分~15時  
予約が必要です。市議団までご連絡ください。